

第153回（平成22年度第2回）理事会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成22年6月26日（土）15：08～17：20
2. 場 所： 順海閣本館（横浜市中区山下町147）
3. 出席理事：（副会長）佐藤 嘉彦、山田 九、片 忠夫
（専務理事）上田 英之
（常務理事）清水 忠、木村 徳善、徳本 進、吉岡 去私
（理事）青木 文明、金子 理人、国島みどり、高柴 一彦、岡田 良平、
小池 光、佐々木生道、森本 珠水、中村 浩人、伊藤 敏光、
黒川 正孝、大澤 康之、和田 幸一、吉野 大成
欠席理事：（会 長）河野 太郎
（理 事）本田 衛義
4. 出席監事： 内海 雄三
欠席監事： 井上 敏郎
5. 議長選出： 上田 英之専務理事を指名
6. 議事録署名人選出：小池 光理事、吉野 大成理事を選出
7. 書 記： 守谷 紀幸広報委員を指名
8. 議 事

議事に入る前に、片副会長から、役員改選により県連の役員メンバーが一新された。新しい方は新鮮な気持ちで、ベテランは気持ちを切り替えて新たなスタートを切って欲しい。これまでの理事会では、各理事の発言が少なかったなので、皆さんの積極的な発言に期待している旨の挨拶があった。

1) 競技本部

(1) 報告事項

①県総体スキー競技会の開催要綱について

吉岡競技本部長より、6月19日に新旧理事引継ぎ会を行ったとの報告があり、県総体を引き継ぐ事業について次のような具体的な検討案の提示があったが、以下のような意見が理事から出され、本日の意見を持ち帰り、今後更に競技本部内で検討を進めることで了承された。

イ) 大会名：市町村対抗スキー競技大会

ロ) 競技種目：アルペン大回転、回転、ノルディックフリー個人競技

ハ) 組 別：アルペン少年男子・女子（中・高校）、成年A（18～34歳）、成年B（35歳～45歳）、成年C（46歳～54歳）、成年D（55歳以上）
ノルディック少年男子（中・高校）、成年男子A（18歳～34歳）、成年男子B（35歳以上）、女子は1クラス

ニ) 参加資格：在住、学生は在学を含む。国体選手も可。

ホ) ポイント計算：クラス毎の参加上限はないが、上位2名程度のポイントを計算。

ヘ) 参加費：1種目2,000円

ト) その他：SAK競技一般・マスタースポイントは付与する。

(2) 審議事項

①国体出場推薦を受けたが国体に参加できなかった選手の健康診断費用について

吉岡競技本部長より、今回の国体予選を通過して出場推薦を受けた選手で、日本体育協会の資格がなかったために本大会に出場できなかった選手の健康診断費用について、県連で負担したい旨の提案がなされ、承認された。

2) 教育本部

(1) 報告事項

本村教育本部長から、次の通り報告があり、了承された。

① 各種報告・SAK関係

イ) 教育部会の開催(6月7日、6月19日)

教育本部の事業運営、専門委員、各担当配置について協議

ロ) 南関東ブロック協議会

南関東スノーボード技術選手権大会の開催日程提案と審判1名の依頼

②行事予定

イ) SAK・南関東ブロック関係

・南関東ブロック技術員研修会場変更(車山スキー場→鹿沢スキー場:降雪困難により変更要請有り)

(2) 審議事項

なし

3) 総務本部

(1) 報告事項

①慶弔関係 なし

②資金運用関係

金子理事から本年5月末の現預金残高が、8,153,501円であるが、前年同期との差は、70周年記念事業の収益等であるとの報告があり、了承された。

③会員登録状況

徳本総務本部長から、別添資料のとおり総数で前年度5,659人から今年度で5,444人と215人の減となっているとの報告があり、了承された。

④協賛会員拡大委員会

徳本総務本部長から、新規の協賛が4社あったが、いずれも公募事業の応募業者であったとの報告があり、了承された。

⑤ハンディキャップ委員会

国島理事から、6月19日に前期委員の反省会及び懇親会が開催され、7月12日に第1回の委員会が開催予定であるとの報告があり、了承された。

⑥広報委員会

青木理事から、7月7日に第1回委員会開催の予定であるとの報告があり、了承された。

⑦財務委員会

金子理事から、定期預金の書き換えが計10本完了しているが、預金利子があまりにも低利なので、今後何らかの対策を検討したいとの報告があり、財団法人として問題のない範囲で検討することで了承された。

⑧電子申込委員会

金子理事から、7月に委員会を開催する予定で、事務の効率化が大幅に見込める電子申し込みが思ったように普及しないことの対策を検討していきたいとの報告があり、了承された。

⑨評議員会資料作成その他

徳本総務本部長から、評議員会資料の作成について、例年報告が遅れていた級別テストの結果

報告が、今回は全協会クラブから提出済みとの報告があり、了承された。

続いて、各本部方針の具体化策については 10 月頃の常務会で各本部の事業方針のレベル合わせを行うとの報告があり、了承された。

(2) 審議事項

①神奈川県スキー連盟及び全日本スキー連盟専門委員の推薦について

徳本総務本部長より、別紙一覧資料のとおり総務・教育・競技3本部の各専門委員候補者及び全日本スキー連盟のブロック技術員候補者の推薦について一括して提案がなされ、理事からは次の質疑があり、承認された。

(山田副会長) SAKの理事がSAKの専門委員を兼ねているケースがあるが、事業実施の段階で責任の所在が不明確になってしまうのは、いかなものか。

(上田専務理事) 場面に応じての役割の違いがあり、それは理解してもらっていると考えている。

(片副会長) こうなったことには経緯がある。教育本部のブロック技術員だけでは足りないので、ブロック技術員と同等の取り扱いで他の本部の方に兼ねてもらった。その結果理事になったら、役職上の問題で兼ねないというのが基本原則だったが、規約上は兼務禁止にはなっていない。理事は執行の部長なので現場の役員と兼ねるのは異常。規約上、名誉役員と他の役員・委員の兼務は禁止されている。

(岡田理事) 一般会員から見て分からないことが問題なのではないか。

(吉岡競技本部長) 人員が足りているなら、理事の立場で行けばいいのではないか。

(清水常務理事) これまで協会からの推薦に沿って推薦していたので、今後取り扱いを検討していけばよいのではないか。

(佐藤副会長) 現実問題として、競技と教育などで兼務あるが、そうしないと事業が回らないほど人が足りないのか。

(木村教育本部長) 足りると思う。北海道行事の役員に他の本部の理事が入っていた方がうまく回ると思う。吉野理事、高柴理事、徳本本部長には兼務してもらっている。

(吉岡本部長) 足りていないことはない。専門委員にも来たいというのを断っていることもある。

(片副会長) 車山の研修会で足りなくなってしまったことがあった。

(上田専務理事) 今この場で整理するか、それとも次期とするか。

(佐藤副会長) 次期でよいと思う。現場で大きな問題があるわけではない。きちんとした形で次期専門委員を選出すればいいし、規約の整理も行うことができる。

(山田副会長) 横浜協会は、基本的に推薦が上がってきたものは全て推薦して県連で判断してもらうという考えだ。理事になっているならその肩書きで行事に参加すればいいと思う。

(上田専務理事) 実施時期は次期。理事の責任の範囲については、規約を整備するということで如何か。

②事務局の7～8月の土曜日休務について

徳本総務本部長より、7・8月の土曜日の事務取り扱いを休みとしたいとの提案がなされ、承認された。

③議事録署名人の選出について

徳本総務本部長より、教育本部の小池理事と競技本部の吉野理事を今年度の議事録署名人としたいとの提案がなされ、承認された。

④平成21年度事業報告について

徳本総務本部長より、別添資料のとおり総務本部報告があった。続いて、木村教育本部長から別添資料のとおり教育本部報告があり、パトロール大会の女子チーム数及び総務本部報告との体裁の違いについて質問があった。

専務理事報告と競技本部報告については、後日提案をうけることとし、その際に一括して採決することとした。

⑤平成21年度決算報告

金子理事より、別紙のとおり報告があり、県体協の監査も経ているとのことであった。特別会計からの繰入金収入で、予算計上していなかった、HC賛助会費29万円及び70周年特別会計からの繰入金54万円が追加されたことと、体協からの補助金140万円については入金年度が違うがすでに662,500円を八幡平合宿へ支出していることが報告された。また、清水常務から、項目名の「基礎スキー」「野辺山スキー場」の文言は訂正願いたい。佐藤副会長から、海外スキー行事は収入で28万円、支出で12万5千円、計40万円の赤字だ。片副会長から、精査率が高い報告だとの意見があり、承認された。

4) 監事意見

内海監事から、別添資料のとおり監査報告があり、事業実施においては安全安心の対応をされるよう努力されたい。また、プレ監査及び本監査に対してよく事業報告を纏めた協力は認めるものの、報告時期が遅れる事業があったことは指摘しておきたいとの意見があった。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記により署名する。

平成22年 7月 10日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印